

いっこが  
育つ古河



(父：英樹、母：理恵)

(平成29年1月生まれ・上辺見)

(父：望、母：奈苗)

(平成28年8月生まれ・南町)

(母：有加里)

(平成30年2月生まれ・三杉町)

(父：潤一、母：雪)



たくさんの患者を救う  
フライトドクターに

高澤菜々美さん 小堤小学校6年生

わたしの夢は、フライトドクターになることです。わたしは、フライトドクターの仕事を題材としたテレビドラマが好きで、ずっと観ていました。ヘリコプターで患者さんのところまでかけつける姿にあこがれて、わたしもなりたいなと思いました。

もうひとつ理由があります。それは、病気で辛い思いをしている患者さんを一人でも多く救いたいと思ったからです。さらに、患者さんだけではなく、大切な人を亡くしてしまった家族の方も勇気づけられるような医者になりたいです。



キラリ☆光輝く人たち

## 国体を契機に地域スポーツを盛んに

**中村清** さん(仁連・69歳)

古河市では、8月31日、9月1日にいきいき茨城ゆめ国体2019の公開競技として綱引、9月8日にデモンストレーションスポーツとして少林寺拳法が開催されます。今回は、古河市綱引連盟会長として綱引普及に尽力する中村さんに、綱引チームの育成から茨城国体での優勝にける意気込みや地域スポーツの普及にける思いを伺いました。



地域スポーツのために

30年にわたって仁連小学校サッカー少年団の監督として活動したり、24年にわたってスポーツ推進委員として活動したりと地域のスポーツ振興のために尽力してきた中村さん。その活動の原動力は、スポーツを通して子どもたちが元氣よく育ってほしいという思いでした。

綱引競技に関わるきっかけは、平成24年から4年間務めたスポーツ推進委員の会長を退任する際に、新設される予定の古河市綱引連盟の会長職への就任を打診されたことでした。綱引に関する知識が全くなかったので、会長職を引き受けることには消極的だったと笑いながら話します。

しかし、スポーツ推進委員の活動を通して綱引競技誘致の経過を知っていたことや、国体をきっかけに地域スポーツを盛り上げたいという強い思いから会長職を引き受ける決心をしました。

**何もかもが初めての連続**

綱引の経験はほとんどな

く、専門的な知識が全くないところからのスタートでした。初めに取り組んだのは、日本綱引連盟や関東綱引連盟との積極的な意見交換。さらに、綱引のルールやチームの育成方法を勉強するなど大忙しの毎日だったと振り返ります。

また、国体出場を目指すのはもちろん、国体終了後も綱引を通じた交流を継続していきたいよう、地元チームの育成にも力を入れてきました。

## チームの育成と目標

綱引では、綱の引き方や勝負の駆け引きなど、競技経験が非常に重要になります。



▲高校生に綱を引くときの姿勢について指導する中村さん

平成28年に国体に向けて恩名下坪T.Cを中心とした特別編成チームを作りましたが、練習量や経験値が足りず、大きな大会では連戦連敗が続きました。

それでも、チームのメンバーや中村さんをはじめとする綱引連盟のスタッフは、諦めずに地道に練習を積み重ねた結果、平成31年3月に行われた全国大会では、2勝することができました。

8月31日から開催される茨城国体では優勝を果たし、今まで一緒に頑張ってきたみんな

ことができました。

8月31日から開催される茨城国体では優勝を果たし、今まで一緒に頑張ってきたみんなと喜びを分かち合いたいと話します。

地域での普及を目指して

最近では、古河中等教育学校や古河第三高等学校に綱引チームができ、国体出場を目指すなど、綱引が幅広い年代に浸透し地域のスポーツとして根付き始めていると中村さんは感じています。

この流れが途切れることの無いよう、継続的に普及活動に力を入れていきたいと話す姿はとても生き生きとしていました。